

2005

川上ダム通信 6月号

発行者
独立行政法人水資源機構
川上ダム建設所
〒518-0294
三重県伊賀市阿保 251 番地
TEL : 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

名張川クリーン大作戦

環境の日の6月5日(日)、「川の会・名張」(NPO団体)の主催で「名張川クリーン大作戦」と題して名張川の清掃活動が行われました。約660人が集まり、当機構からも職員とその家族21名が参加しました。

☆参加者の声☆

河原に降りてみると、草むらや堤防斜面下などにゴミがたくさん見つか、「良かったな」という気持ちと「どうしてゴミを捨てるのかな」という気持ちが錯綜する中、数時間ゴミ拾いを行いました。



その後、河川敷で自転車を発見し、閉会式で主催者からお褒めの言葉を戴いたときは、ちょっと誇らしげで少しは貢献できたのかなと思いました。【第一用地課・平田政一】

家を出る前渋っていた長女も、いざ作業開始となると熱中し率先していました。次女は学校で「水」について学んでいる最中。少しでも川の大切さを分かってくれたかなあ。【第二用地課・山口和宏】

河川功労者表彰に中島丸王さん



表彰状と記念品を受け取り、喜びの中島さん

中島丸王さんは川上ダム建設予定地下流の地点(比土地点)の水位観測を昭和43年~平成15年までの36年間担当されました。その観測データがダム計画等に有効利用されていることが功績として評価され、今回の日本河川協会からの表彰に至りました。

中島さんが「大雨後の観測標のゴミ取りに苦勞した」と話されていたのが印象的でした。長年の功勞に敬意を表したいと思います。【通信記者・武村剛泰】



中島夫妻と恒・所長

初夏の水面に浮かぶ「花いかだ」

5月29日（日）に「川の会・名張」（NPO団体）が主催する「花いかだ」作りに総勢25名が集まり、川上ダム建設所からは恒・所長をはじめとする5名の職員が参加しました。

日中の暑い日差しの中、いかだ作りは本体の組み立てから装飾用の竹切りと加工、フロートの装着まで、試行錯誤の連続で約6時間を要しましたが、苦勞の甲斐あってか2艘とも無事に水路に浮かび、最後に花菖蒲を飾り付けて作業を終了しました。



恒・所長、張り切る!!



完成した「花いかだ」と参加者のみなさん



夕闇の行灯に浮かぶ「花いかだ」

この「花いかだ」作りは毎年行われているもので、今年で16回目を迎え、今では地域に根ざしたイベントとなっており、夕闇が迫る柳瀬水路で行灯の光に浮かんだ2艘の「花いかだ」は、名張市の風物の一コマとなっています。【総務課長・上村信幸】

第18回青山高原つつじクォーターマラソン大会

5月29日（日）、青山高原にて「第18回青山高原つつじクォーターマラソン大会」が開催され、県内外から参加した約1000人が高低差100mの険しいコースを駆け抜けました。その中で、わが川上ダムチームは、3km部門に2人、5km部門に6人の計8人が参加しました。



川上ダムのメンバー

☆参加者の声☆

三角点（標高756m）からの眺望や青山太鼓演奏、振る舞い料理など競技以外の楽しみも盛りだくさんで、休日を楽しめました。日々の寮から桔梗が丘までの徒歩通勤が効を奏したのか、何とか完走できました。【第一用地課・塩飽俊夫】

難コースでしたが、新緑の高原の風景を楽しみながらチーム全員見事に完走することができました。走り終えた皆さんは一律に達成感と疲労感を味わっていました。マラソンは本当に自分の力だけで走っているのではないことが良く実感できます。地域の皆さんの応援あるいは大会関係者のサポートがあったからこそ完走することができ、またそれがマラソンの一番の醍醐味だと思いました。【通信記者・田中幸志】



川上ダム一の快走をみせた塩飽さん

現場レポート～オオサンショウウオ移転個体追跡調査～



唯一発見できたオオサンショウウオ

の生態に触れることができ、また見たことがなかったホタルを発見でき、貴重な体験をさせていただきました。【通信記者・田中幸志】

6月9日(木)、環境課で行っているオオサンショウウオの移転個体追跡調査に同行いたしました。今回の調査場所は、前深瀬川の出合橋周辺で夕方7時から10時までの3時間、調査を実施しました。

調査開始から1時間後、調査員の方が川の中を泳いでいた(歩いていた?)オオサンショウウオを発見し、捕獲!しかし昨日見つかったものと同じものだったらしく、その後も新しい個体は発見できませんでした。私も自分で見つけようと歩き慣れない川の中を汗だくになりながら必死に探しました。

今回の調査に同行して自然のオオサンショウウオ

セクシュアルハラスメント講習会開催



講師の田辺圭子氏

6月6日(月)、講師に財団法人21世紀職業財団の田辺圭子氏をお迎えしてセクシュアルハラスメント講習会を川上ダム建設所ふれあいホールで開催しました。田辺講師の具体例を交えながらのお話はわかりやすく、職員にとって有益なものでした。

【通信記者・武村剛泰】



話に聞き入る職員一同

新コーナー:新技術の紹介 ～盛土補強用ジオテキスタイル～

シリーズ第1回目は、三菱化学産資株式会社が開発した盛土補強工法を紹介します。

この新工法は、従来、別々のジオテキスタイルにより行われていた、引張補強と排水補強という2つの機能を1つのジオテキスタイルで実現させた工法です。

本工法の特徴は、ジオグリッドと同等の引張強度を持ちながら、土中間隙水の排水機能も有していることにあります。盛土の圧密促進を図りながら、引張補強も行えるので、従来ジオグリッドだけでは盛土材として使えなかった高含水比粘性土も材料として使用することが可能です。盛土のり面保護に必要な鋼製壁面材との連結も可能であり、1～6分勾配の急勾配盛土(補強土壁工法)にも使用できます。



ダイヤベースHSは、高強度繊維と高弾力性樹脂繊維を一体化させることで、排水補強と引張補強の両機能を併せ持つ、排水性盛土補強ジオテキスタイルです。

【国土交通省ホームページ:新技術情報提供システム(NETIS)より参照】

商工会女性部の植花事業

建設所の玄関前を明るく飾っている木製のプランター。このプランターは伊賀市商工会議所青山支部女性部65名の皆さん等が善意で設置してくれているもので、花は年2回、植えてくれています。



花を植える女性部の皆さんとプランター

女性部代表の大田さんは「地域に貢献できることにやりがいを感じ、さまざまな勉強ができることや人とのつながりも役員の魅力です」と話されていました。青山支部女性部の活動に感謝したいと思います。

【通信記者・武村剛泰】

初瀬街道宿場町、紹介します



観光看板と「たわらや」(後方)

青山観光協会がこのほど、初瀬街道（はせかいどう）沿いの伊賀市阿保の旧阿保宿に観光看板を設置しました。

初瀬街道とは、江戸時代に関西方面から伊勢神宮にお参りする人々が通った道で、伊賀市阿保はその宿場町して大繁盛しました。

今でも伊勢神宮参拝客の定宿であった「たわらや」には当時の講看板が百枚ほど保管され、「初瀬街道交流の館」として一般に公開されています。 【通信記者・武村剛泰】

EVENT

伊賀農業公園～農業ふれあい祭り

伊賀市農業公園を会場に、都市と農村の住民が自然の中での農業体験を通じてふれあいながら、農村地域の活性化を促すことを目指す行事です。

○日時／7月18日(月) 9:00～15:00

○集客規模／3000人

青山夏祭り

盆踊りや花火の打上げなどが賑やかに行われます。

○日時／7月23日(土)

○場所／青山支所駐車場

なばりBARI BARI

新町・愛宕神社「愛宕の火祭り」の松明の川渡りを合図に3000発の花火が名張川新町河畔を彩ります。「名張で一番、人の集まるとき」です。

○日時／7月24日(土)

○場所／愛宕の火祭り(新町・愛宕祭り)

名張川納涼花火大会(名張川新町河畔)

編集後記

降雨不足のためダムの貯水量不足が連日の話題となっており、改めて機構の任務の重要性を感じています。

今月号ではシリーズ企画「新技術の紹介」の1回目を掲載しました。この他にも皆さんの中で記事となる材料がありましたら、どしどし投稿をお願いします。お待ちしております。

広報誌発行事務局

編集長 恒・徹(川上ダム建設所長)

デスク 上村 信幸(総務課長)

〃 二林 修(工務課長)

通信記者 武村 剛泰(総務課)

〃 田中 幸志(工務課)